

令和3年度 西川町教育委員会事務事業点検・評価報告書

令和4年9月

西川町教育委員会

令和3年度 西川町教育委員会事務事業点検・評価報告書

1	教育委員会事務事業点検・評価	1
2	教育委員会の活動状況	
(1)	教育委員会委員	2
(2)	教育委員会の活動	2
3	教育委員会の活動状況に対する教育事務評価委員の意見	4
4	教育委員会事務事業に係る施策の体系	
(1)	教育委員会事務事業に係る計画の関連性	5
(2)	西川町教育大綱の概要	5
(3)	4つの基本的方向性	5
(4)	西川町教育振興基本計画施策展開体系図	6
5	事務事業点検・評価シート(8つの主要施策)	
(1)	「生きる力」の確実な育成	7
(2)	生涯の各段階を通じて推進する取組	11
(3)	社会的・職業的自立に向けた力の育成	13
(4)	意欲ある全ての者への学習機会の確保	14
(5)	新たな価値を創造する人材・グローバルな人材の育成	18
(6)	互助・共助による活力あるコミュニティの形成	20
(7)	生涯学習と生涯スポーツを通じた交流と地域・組織づくり	23
(8)	自然や文化を生かした地域づくりの推進	26
6	教育事務評価委員の意見(総括)	28

1 教育委員会事務事業の点検・評価

はじめに

西川教育委員会では、平成 28 年 3 月に策定した教育大綱で、「自立」「協働」「創造」を基軸とした生涯学習社会の構築を目指す。」を掲教育目標に掲げ、「社会を生き抜く力の養成」「未来への飛躍を実現する人材の育成」「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」「自然と文化を生かした心豊かな人づくり」を 4 つの基本的方向を柱に決めました。

また、令和 3 年 3 月には、令和 5 年度までの 3 カ年を対象期間とする西川町教育振興基本計画を改定し、上記の 4 つの基本的方向を実現するために 8 つの主要施策と 20 の重点施策を体系化し、各種事業を展開しています。

この度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、令和 3 年度に実施した事務事業について点検評価を行い、効率的な教育行政の推進及び町民に説明責任を果たすため、西川町教育事務評価委員の皆様からの意見をいただき、その結果を報告書としてまとめました。

点検評価の方法

(1) 教育委員会事務局職員による内部評価

西川町教育振興基本計画施策展開体系図に基づき、8 つの主要施策と 20 の重点施策毎に、令和 3 年度に実施した事業内容、その成果と課題、今後の方針について、内部点検評価を実施

(2) 西川町教育事務評価委員からの意見

客観性を確保するため、西川町教育事務評価委員(外部評価委員)に内部評価の説明を行った後に、事業内容や今後の方向性等についてご意見をいただいた。

(3) 報告書作成

教育事務評価委員からの意見も入れ込んだ事務事業点検報告書を作成

(4) 西川町教育委員会での審議

事務事業点検報告書について町教育委員会で審議

(5) 公表

町議会への報告及び町民への公表

西川町教育事務評価委員

氏名	役職名等
荒木 良弘	西川町社会教育委員
荒木 美知子	前小学校教諭
尾形 順一	西川小学校 P T A 会長

西川町教育事務評価委員会の開催内容

第 1 回目：令和 4 年 7 月 28 日 内部評価した内容について説明を行った。

第 2 回目：令和 4 年 8 月 22 日 意見をいただいた。

2 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会委員

職名	委員名	任期
教育長	前田 雅孝	令和 3 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日
教育委員	阿部 仁	令和 2 年 10 月 1 日 ~ 令和 6 年 9 月 30 日
教育委員	近松 和朗	令和 1 年 10 月 1 日 ~ 令和 5 年 9 月 30 日
教育委員	大泉 奈緒子	令和 3 年 10 月 1 日 ~ 令和 7 年 9 月 30 日
教育委員	松田 光子	平成 30 年 12 月 23 日 ~ 令和 4 年 12 月 22 日

令和 4 年 3 月 31 日現在

(2) 教育委員会の活動

会議の開催

開催日	種別	議 事
4 月 20 日	定例	議第 1 号 令和 3 年度西川町学校教育センター職員の任命について 議第 2 号 西川町青少年育成推進員の委嘱について
6 月 1 日	定例	議第 3 号 西川町教育支援委員会委員の委嘱について 議第 4 号 育英奨学資金運営審議委員会委員の委嘱について 議第 5 号 西川町教育事務評価委員の委嘱について 議第 6 号 河北町立小学校への区域外就学の承諾について 議第 7 号 西村山地区教科用図書採択協議会委員の指名について 議第 8 号 西村山地区教科用図書採択協議会委員の推薦について
6 月 22 日	定例	議第 9 号 西川町社会教育委員の委嘱について 議第 10 号 西川町公民館運営審議会委員の委嘱について 議第 11 号 西川町公民館職員の任命について
7 月 27 日	定例	議第 12 号 令和 4 年度使用教科用図書の採択について
8 月 23 日	定例	議第 13 号 令和 2 年度西川町教育委員会事務事業点検・評価の報告について 議第 14 号 令和 3 年度西川町立西川中学校の要保護・準要保護児童生徒の認定について
9 月 28 日	定例	議第 15 号 令和 4 年度学級編制届出書について
10 月 25 日	定例	議第 16 号 令和 3 年度西川町立西川小学校の要保護・準要保護児童の認定について
11 月 24 日	定例	議第 17 号 寒河江市立中学校への区域外就学の承諾について 議第 18 号 河北町立中学校への区域外就学の承諾について 議第 19 号 西川町開発センター条例等の一部を改正する条例の設定について
12 月 21 日	定例	なし

1月25日	定例	議第20号 令和4年度西川町学校教育及び生涯学習の重点について 議第21号 令和4年度西川町立西川小学校及び西川町立西川中学校の入学予定者について 議第22号 令和3年度西川町立西川小学校及び西川中学校の要保護・準要保護児童生徒の認定について 議第23号 令和3年度大江町立中学校への区域外就学の承諾について 議第24号 令和4年度河北町立小学校への区域外就学の承諾について
開催日	種別	議 事
2月22日	定例	議第25号 令和4年度西川町一般会計予算(案)(教育費)について 議第26号 西川町スクールバス条例の一部を改正する条例の制定について 議第27号 西川町社会体育施設条例の一部を改正する条例の制定について 議第28号 西川町社会体育施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 議第29号 西川町教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部を改正する規則の制定について 議第30号 西川町立小中学校管理規則の一部を改正する規則について 議第31号 令和4年度西川町教育委員会委員の学校訪問について
3月8日	臨時	議第32号 令和4年度西川町立小中学校職員の人事異動内申について
3月22日	定例	議第33号 令和4年度西川町立小中学校の要保護・準要保護児童生徒の認定について 議第34号 令和4年度西川町立小中学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 議第35号 学校運営協議会委員の任命について 議第36号 令和4年度西川町教育委員会所属職員の人事異動について

総合教育会議

開催日	協 議 案 件
10月25日	・小中学生の不登校及び引きこもり対策について ・部活動の環境整備について

学校訪問

実施日	内 容	場 所
6月1日	学校経営概要説明・授業参観・教職員との懇談	西川中学校
6月22日	”	西川小学校

その他(行事・研修等)

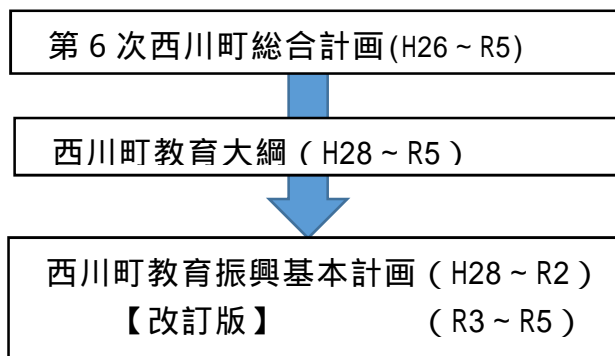
実施日	内 容	場 所
4月1日	教職員辞令伝達式(コロナ感染防止のため教育長のみ対応)	西川小学校・西川中学校
7月1日	西村山市町教育委員会連絡協議会総会・研修会 (コロナ感染防止のためオンライン会議)	西川町役場
11月24日	教育委員・校長教頭合同研修会	西川町役場
1月9日	町成人式(令和2年度・令和3年度対象者)	西川交流センター
1月15日	町総合表彰式	西川交流センター
3月31日	退職教職員感謝状贈呈式	西川町役場

3 教育委員会の活動状況に対する教育事務評価委員の意見

外部評価委員 による評価・ 意見	・教育長を始めとする各委員の皆様、教育委員会の皆様におかれましては、町の宝でもある子ども達の為、また町民の為に多方面における会議研修等を行いご尽力されていることに対し敬意を表します。
------------------------	---

4 教育委員会事務事業に係る施策の体系

(1) 教育委員会事務事業に係る計画の関連性



(2) 西川町教育大綱の概要

教育の基本理念

「ふるさとを愛し ふるさとに誇りを持ち

ふるさとの文化を高め 未来を拓く町民の育成」

教育の基本目標

「自立」「協働」「創造」を基軸とした生涯学習社会の構築を目指す。

自立 … 一人一人が多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことのできる生涯学習社会

協働 … 個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かして、共に支え合い、高め合い、社会に参画することのできる生涯学習社会

創造 … 自立、協働を通して更なる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会

(3) 4つの基本的方向性

社会を生き抜く力の養成

社会が激しく変化の中で自立と協働を図るための能動的・主体的な力を誰もが身につけられるようにする。

未来への飛躍を実現できる人材の育成

変化や新たな価値を主導・想像し、変革を実現する人材、グローバル社会に置いて書く分野を牽引できるような人材を養成する。

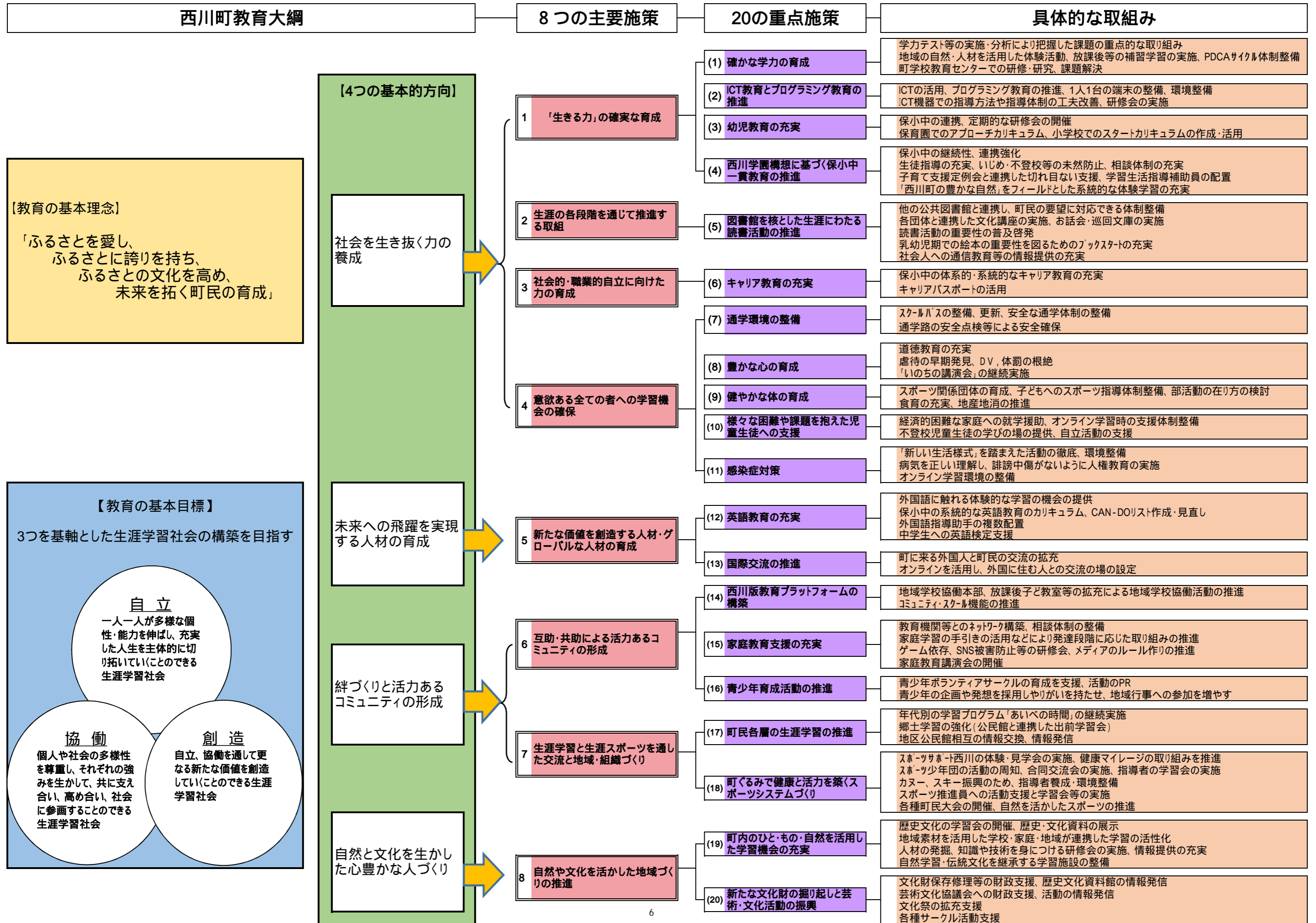
絆づくりと活力あるコミュニティの形成

個々人の取り組みに委ねるのではなく、社会全体の協働関係において推進し、学校教育内外の多様な環境から学び、相互に支え合い、様々な課題の解決や新たな価値の創出を促す。

自然と文化を活かした心豊かな人づくり

町の自然資源や文化財を大切に自然環境学習の一層の充実と、新たな文化活動に向けた取り組みを継続することで、心豊かな町民を育成していく。

(4) 西川町教育振興基本計画施策展開体系



5 事務事業点検・評価シート（8つの主要事業）

（1）「生きる力」の確実な育成

基本的方向1 社会を生き抜く力の養成

変化の激しい社会を生き抜くことができるよう、「生きる力」を一人一人に確実に身に付けさせることにより、社会的自立の基礎を培う。また、一人一人の適性、進路に応じて、その能力を最大限に伸ばし、より社会をつくっていくために必要な資質を養う。

重点施策

(1) 確かな学力の育成

(2) ICT教育とプログラミング教育の推進

(3) 幼児教育の充実

(4) 西川学園構想に基づく保小中一貫教育の推進

	主な事業内容()成果()課題()
実施状況 内部評価	<p>(1) 確かな学力の育成</p> <p><u>学力テスト等の実施・分析により把握した課題の重点的な取り組み</u></p> <p>知能検査(小2、小4、小6、中1)、NRT(小2~中3)、QUテスト(全学年)、ハイパーQUテスト(小2~中3)、全国学力テスト(小6、中3)、県学力テスト(小5、中2)</p> <p>○小中学校とも課題を分析整理し、学力向上のための取り組みを行っている。</p> <p>NRT : 標準化された学力検査</p> <p>QUテスト: 学校生活における児童紙生徒の満足感や意欲、学級集団の状態等を質問紙により測定するもの</p> <p>ハイパーQUテスト: QUの診断尺度に、対人関係を築く際に必要なソーシャルスキル尺度を追加したもの</p>
	<p><u>地域の自然・人材を活用した体験活動、放課後等の補習学習の実施、PDCAサイクル体制整備</u></p> <p>中3を対象とした夏期受験対策講座</p> <p>地域未来塾での放課後の補習学習</p> <p>地域の自然や人材を生かした体験活動(ふるさと楽行・中学校での総合的学習等)</p> <p>○夏期受験対策講座により、中3の学習に対する意識の向上を図ることができた。</p> <p>○小中学校で地域の人材や自然を活かした生活科・総合的な学習に取り組むことができた。</p> <p>カリキュラムマネジメントを行い、PDCAサイクルの体制整備を図っている。</p> <p><u>町学校教育センターでの研修・研究、課題解決</u></p> <p>町学校教育センターでの全体研修会、合同授業研究会、課題に沿った研修会</p> <p>○各部会で先生方が率先して、研究・情報共有に努め成果をあげることができた。</p> <p>○PDCAサイクルが機能するよう、NRT分析のまとめ方を見直して取り組むことが</p>

できた。
教職員数も減少しているのので、組織体制や会議の持ち方を見直し、効率的な運営ができるようにしていく。

【今後の方針】

- ・アンダーアチバーをいかに減らすか、学校と連携して取り組んでいく。
- ・中学校1年生にも「NRT 英語」を導入し、小学校段階での英語学習の成果を図る。結果については小学校とも共有し、英語力の向上を目指す。

アンダーアチバー：心理学で、健康・性格・環境などに原因があって、知能水準から期待される力よりはるかに低い学業成績を示す者

実施状況
内部評価

(2) ICT教育とプログラミング教育の推進

ICTの活用、プログラミング教育の推進、1人1台の端末の整備、環境整備
学習支援ソフト(ミライシード)の導入、児童生徒用端末(305台)の保守契約
電子黒板の購入(R3小1台、中1台購入)等の環境整備

- 端末・学習支援ソフトなど、学習のデジタル化を図ることができた。
 - タブレット家庭学習を設定し、家庭でのオンライン学習への道筋をつけることができた。
- 西川中の授業での活用を推進していく。

ICT機器での指導方法や指導体制の工夫改善、研修会の実施

ICT支援員による指導方法の研修会
ICT支援員による研修会の継続
町学校教育センターの部会で研究を進めることができたので、その成果を他の教員にも波及させていく。

【今後の方針】

- ・学校教育センターでの研修やICT支援員を活用し、ICT機器を活用した指導力の向上を図る。
- ・デジタル教科書の導入を推進し、学習効果を上げるようにする。

(3) 幼児教育の充実

保小中の連携、定期的な研修会の開催

幼児教育について研修会(保育園全職員、小中学校教員)

- 保育士も学校教育センターの構成員となるよう要項を見直し、小中の研修に参加できる体制を整えた。また、気になる園児の様子を大沼心理士やSSWC、指導主事で見取りながら、園児への関わり方や就学の進め方について指導する体制づくりを推進した。
- 寒河江市教育委員会指導主事よりご指導いただき、遊びの場の環境づくりや小学

校とのつながりを意識した保育の在り方を学ぶことができた。

保育士への継続的な研修体制の整備が必要である。

保育園でのアプローチカリキュラム、小学校でのスタートカリキュラムの作成・活用

○西川小経営計画に記載し、保小の接続が円滑に進むよう取り組んだ。

【今後の方針】

- ・ 保育園での研修の継続
- ・ アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムによるより一層効率的・効果的取り組みを行う。

(4) 西川学園構想に基づく保小中一貫教育の推進

保小中の継続性、連携強化

保小連絡会、小中連絡会、小中合同授業研究会

保小中一貫教育の質的向上をめざすため、令和4年度は学校教育センター小中合同授業研究会への取り組みを改善し、小中教員の意識や情報の共有を進め、それぞれの強みを活かす体制づくりを行う。

生徒指導の充実、いじめ・不登校等の未然防止、相談体制の充実

スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置

学校教育課での相談体制整備

○SC、SSWの配置を通して、相談体制の整備を図ることができた。

学校教育課での相談室の利用促進を図っていく必要がある。

中1ギャップの解消や不登校未然防止の対応が十分できていない現状がある。引き続き西川中への指導や支援を行っていく。また、西川小においても、しなやかで強い心を育てることができるよう取り組んでいただく。

スクールカウンセラー（SC）：学校に配属され、生徒や教師の心のケアを行う人

スクールソーシャルワーカー（SSW）：教育、社会福祉に関する専門的な知識や技術を有する人で、問題を抱えた児童生徒に対し、子どもが置かれた環境への働きかけや、関係機関等とのネットワークの構築など、多様な支援方法で課題解決への対応を図っていく。

子育て支援定例会と連携した切れ目ない支援、学習生活指導補助員の配置

月1回の子育て支援連絡会での情報共有

学習生活指導補助員を小学校5名（7時間2名、6時間1名、4時間2名）、中学校2名配置

個別の指導支援に対応することができた。

個別の指導や支援が必要な児童生徒が複数存在するので、継続的な配置が必要である。

実施状況
内部評価

	<p>「西川町の豊かな自然」をフィールドとした系統的な体験学習の充実</p> <p>保小中での自然体験学習を意識した取り組み</p> <p>小5を対象としたブナの森自然学校</p> <p>西川小学校全学年でのふるさと楽行</p> <p>西川中学校1年での月山をフィールドとした学習</p> <p>○ふるさと楽校の取り組みを通して、地域の人材や自然に学ぶことができた。</p> <p>西川中での総合的な学習の時間の取り組みを見直し、系統的な探究活動ができるようにしていく。</p>
	<p>【今後の方針】</p> <p>・〔遅しさ〕を育むための保小中一貫した取り組みを行う。</p>
<p>外部評価委員 による評価・ 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置については前進したと思うが、配置した人の利用促進について、困り感を持った人が相談したいと思えるようなアプローチ作りをしていただきたい。 ・遅しさを育むための保小中一貫した取り組み、それぞれの段階での遅しさを育むという共通理解を図り、推進していただきたい。 ・確かな学力の育成で最も重視すべきことは、授業改善ではないか。新学習指導要領がいざ実施という年にコロナが蔓延し、それどころではなくなってしまった。その結果が、各種の学力検査結果の低迷になっているのではないか。結果に惑わされず、地道に「子ども自身に考えさせる授業づくり」を続けることが大切かと思われる。 ・アンダーアチバーの原因がどこにあるのか個別に把握し、一人一人のもてる能力を發揮できるようにしたい。そのためには、家庭の協力も必要かと思われる。今求められる学力について理解を得て、自分で考えさせる接し方をしたり、学校で学んだことを子どもに話させたりするなど実生活でも鍛えていくことが大事かと思われる。 ・社会の変化に対応して生き抜いていくためにはかかせないICT教育だが、デメリットは、考える力は鍛えられないということだ。それを踏まえたうえでの効果的な活用をしていってほしい。 ・保小中が連携し、定期的に研修会をしていることは評価できる。共通した支援や指導についても話し合われていると思うが、一人一人に自己肯定感を育てることが大事だが実態はどうだろうか。キャリア教育にも通じると思う。 ・保小中一貫教育を推進していくためのコーディネーターとしての役割と授業改善のためにより積極的に学校かかわっていくことを期待する。 ・保小中いずれも「たくましさ」の育成が教育目標となっているが、実際の子ども達は「たくましさ」に課題があるようだ。どこに問題があるのか、普段の支援や指導の仕方について振り返ってみる必要はないだろうか。 ・中学校でのタブレット活用が進んでいない原因を早急に解明し、対策を講じていただきたいと思う。 <p>今年度、中学校でも積極的活用を行っている。</p>

(2) 生涯の各段階を通じて推進する取組

基本的方向 1 社会を生き抜く力の養成

社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら生涯にわたって生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身に付けられるようにする。そのために質の高い学習機会を充実させるとともに、学習成果が広く活用されることを目指す。

重点施策 (5) 図書館を核とした生涯にわたる読書活動の推進

	実施状況 () 成果 () 課題 ()
実施状況 内部評価	<p>(5) 図書館を核とした生涯にわたる読書活動の推進</p> <p><u>他の公共図書館と連携し、町民の要望に対応できる体制整備</u> 県立図書館等との相互連携により、町民の要望に対応している。</p> <p><u>各団体と連携した文化講座の実施、お話し会・巡回文庫の実施</u> 西川中学校へ5月から12月までの8カ月間、月1回の巡回文庫の実施 俳句を楽しむ会（せせらぎ俳句会）おはなし会（ぴーつく）の開催 ファンタイムライブラリー（本坊元児氏トークショー、まんが喫茶コーナー） 町民が図書館を楽しく気軽に利用してもらえるようイベントを開催し、普段利用しない男性層などの参加があった。</p> <p><u>読書活動の重要性の普及啓発</u> 小学校図書委員会との連携でスタンプラリー開催、本の表紙の自作パズルを作成 「なかよし郵便」の実施（縦割班などでおすすめの本を紹介する手紙交換） 授業に参加し、授業で出てくる事柄についての本を紹介</p> <p><u>乳幼児期での絵本の重要性を図るためのブックスタートの充実</u> 11.12ヵ月健診時に親子にブックスタートの本2冊をプレゼントしている。 本の読み聞かせをすることで赤ちゃんは心豊かに成長できる。</p> <p><u>社会人への通信教育等の情報提供の充実</u> 大学の通信教育等の情報や、就職情報等のチラシなどを館内に常備している。</p>
	<p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな利用者を増やすため、図書館主催のイベント、講座等の実施を継続 ・高齢者層、図書館から遠い地域の町民へのサービス充実に努める。
外部評価委員 による評価・ 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中ファンタイムライブラリーは大変良かったと思う。今後もお願いしたい。 ・新刊図書やお知らせの情報は町報だけではなく、<u>HP・ライン・オープンチャット等で流すのも一つの方法か</u>と思う。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・町報では新刊図書の紹介をしているが、その他にも今話題になっている図書や季節や行事などに関連した図書など、読書意欲をかきたてるような内容を毎月載せてはどうか。・各地域の公民館などに分館図書があれば、もっと活用が進むのかもしれない。・子どもの読書習慣を育てるためには、環境も影響していると思われる。親も読書をする姿を見せたり、本のある家庭環境を整えたりすることが大事になると思う。・小学生は小学校と連結しているので利用しやすいですが、<u>中学生や高齢者も図書館を利用しやすいような町のサービスがあれば</u>と思う。町立病院を利用した高齢者が図書館にも立ち寄れるような仕組みなどがあればと思う。 |
|--|--|

(3) 社会的・職業的自立に向けた力の育成

基本的方向 1 社会を生き抜く力の養成

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を身に付けるとともに、勤労観や職業観等の価値観を自ら確立できる子どもや若者の育成を目ざす。また、多様な職業生活に必要な知識や技能を生涯のどの時期においても身に付けられるようにする。

重点施策 (6) キャリア教育の充実

実施状況 内部評価	実施状況 () 成果 () 課題 ()
	<p>(6) キャリア教育の充実</p> <p><u>保小中の体系的・系統的なキャリア教育の充実</u></p> <p>中2での職場体験学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○西川中の職場体験学習トライやるウィークを開催し、町内の業者や施設の様々な仕事を体験することができた。 ○西川小の10周年記念、西川中の20周年記念事業で、先輩に学ぶパネルディスカッションや講演会を行い、町のよさを改めて知り、将来への展望を持たせる一助となった。 <p><u>キャリアパスポートの活用</u></p> <p>取り組みについての現状把握を行っていく。</p> <p>キャリアパスポート: 小学生から高等学校までのキャリア教育に関する活動について記入し、記録を集積していく。</p>

【今後の方針】

- ・トライやるウィークでは、受け入れ事業所の新規開拓を行い、仕事の多様性を学ぶことができるようにする。
- ・キャリアパスポートを有効に活用してもらい、自尊感情を高めるようにしていく。

外部評価委員 による評価・ 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・記念事業での<u>先輩に学ぶ</u>は非常にいいことだと思う。 ・職場体験の事業所として役場などもいいのではないかと。 令和3年度は役場政策推進課で、令和4年度は生涯学習課で受け入れた。 ・キャリア教育が小学校から導入された背景を理解して取り組むことが大切かと思われる。そうすることで「キャリアパスポート」の内容や活用、さらには必要感も見えてくると思われる。 ・<u>キャリア教育を充実させる</u>ことで、一人一人の個性や学びに目を向けた支援や指導ができるのではないかと。 ・子どものうちから社会性を育てることが大切かと思う。家族内での会話や子ども同士の雑談、地域の人々との関わりやコミュニケーションを大事にしたい。 ・定期的になりたい職業の調査や、なるためにはどのような学習や方法があるかなど職業に対する関心を持たせる工夫が出来ればと思う。 ・トライやるウィーク参加業者、個人的な会社や事業などでも増えていけばと思う。
------------------------	---

(4) 意欲ある全ての者への学習機会の確保

基本的方向 1 社会を生き抜く力の養成

様々な困難や課題を抱えて支援を求めるものに対して、生涯を通じて多様な学習機会を確保する。また、安心で安全な教育環境の整備に取り組む。

重点施策

(7) 通学環境の整備

(8) 豊かな心の育成

(9) 健やかな体の育成

(10) 様々な困難や課題を抱えた児童生徒への支援

(11) 感染症対策

実施状況 () 成果 () 課題 ()

実施状況
内部評価

(7) 通学環境の整備

スクールバスの整備、更新、安全な通学体制の整備

29人乗りスクールバス購入(12号車)

法定点検、修繕、スタッドレスタイヤ購入、IP無線での安全確認等

スクールバスについて、計画的な更新が図られた。

小学校の徒歩通学区域の保護者より、冬期間のバス通学の要望が出された。

統合して10年経過し、児童生徒数も減少していることから、今後検討が必要。

運行形態、路線が複雑になっており、全体的な見直しや学校、運行業者、教育委員会での3者で打合せが必要。

通学路の安全点検等による安全確保

年2回の合同点検

交通生活安全対策協議会での育成会からの要望に基づいた対応

スクールガードリーダー2名配置

○合同通学路点検を行い、危険個所の把握と安全確保を行うことができた。

未修繕箇所の整備の要望を行っていく。

【今後の方針】

- ・計画的なスクールバス更新
- ・通学路の定期的な安全点検と危険箇所の改善を図っていく。

(8) 豊かな心の育成

道徳教育の充実

国の委託を受けて人権教育を推進

○人権教育と合わせて積極的に取り組まれている。

西川中での経営計画訪問で、生徒自身が考え議論する道徳授業への改善が求められた。

	<p><u>虐待の早期発見、DV, 体罰の根絶</u></p> <p>健康福祉課との連絡体制、情報共有に努めている。</p> <p>○子育て支援会議で情報共有や対策について協議され、重大な事案は発生していない状況にある。</p> <p><u>「いのちの講演会」の継続実施</u></p> <p>小学校、中学校での性教育講演会</p> <p>児童生徒のいのちを大切にすることを意識を高めることができた。</p>
	<p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育研究の成果を活かし、自身および他を尊重しながら生きる素地を養う取り組みを行う。 ・特別の教科道徳の学習を通して豊かな心を育成する。 ・図書館と連携し、家庭での読書活動を推進する。
<p>実施状況 内部評価</p>	<p><u>(9) 健やかな体の育成</u></p> <p><u>スポーツ関係団体の育成、子どもへのスポーツ指導体制整備、部活動の在り方の検討</u></p> <p>部活動指導員の配置</p> <p>部活動大会補助</p> <p>○部活動指導員を配置し、水泳大会への引率や遠隔地での部活動への支援を行うことができた。</p> <p>スポ少、部活動の今後の在り方について検討を進める必要がある。</p> <p><u>食育の充実、地産地消の推進</u></p> <p>小・中学校では、食育に関する目標、重点、年間指導スケジュール等の食育指導計画に添った取り組み</p> <p>学校栄養士による食育指導、給食便り発行</p> <p>健康福祉課で作成した健康レシピ集を給食メニューに取り入れている。</p> <p>放課後子ども教室で食生活推進員による朝ごはんの大事さ及び味覚教室の実施</p> <p>給食食材として町内産の野菜・米を使用</p>
	<p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行についての検討。土日のスポーツ活動に対する環境整備を行う。
	<p><u>(10) 様々な困難や課題を抱えた児童生徒への支援</u></p> <p><u>経済的困難な家庭への就学援助、オンライン学習時の支援体制整備</u></p> <p>就学支援制度の周知（個人通知、PTA総会資料と一緒に配布）</p> <p>就学支援児童生徒へのモバイルルーターの無料貸し出し</p> <p>○家庭での通信環境を整えるため、必要な家庭にルータの貸し出しおよび費用の援</p>

助を行った。

就学支援制度の規準を満たす児童生徒に対して支援漏れの無いよう、関係各課と連携し更に制度の周知に務めていく必要がある。

不登校児童生徒の学びの場の提供、自立活動の支援

ぴーちく LOVE にしかわの立ち上げ、相談室の開設、周知を図るためのイベント開催

○スクールソーシャルワークコーディネーターを配置し、各事業の計画立案を行った。

○居場所づくり・相談室の立ち上げ、ぴーちく LOVE の立ち上げを行い、イベント等を開催しながら、周知を図ることができた。

【今後の方針】

- ・就学支援制度の周知の徹底（健康福祉課との連携、お知らせ版での周知）
- ・不登校児童生徒の相談室、居場所づくりの推進、関わってくれる地域住民を増やす。

(11) 感染症対策

「新しい生活様式」を踏まえた活動の徹底、環境整備

国補助を活用して以下の内容で環境整備を図った。

- ・小学校：厨房手洗器取替工事、電子黒板（1台）、西山材パーテーション（9基）、検温器（2台）、ジェットヒーター（2台）、非接触体温計（3本）、感染対策資機材（消毒液等）
- ・中学校：ホワイトボード（2台）、電子黒板（1台）、加湿器（5台）、検温器（2台）、スクリーン、テーブル、多目的室及び調理室網戸設置、保健室用（マットレス・椅子・机）、感染対策資機材（Co2 測定器、温湿度計等）
- ・小中学校での Zoom 会議使用料

病気を正しい理解し、誹謗中傷がないように人権教育の実施

国補助事業を受けた人権教育の実施

○人権教育の国委託事業実施し、小中で様々な取り組みを行うことができた。1月に事務所の担当指導主事が西川町の実施状況を紹介する予定。

オンライン学習環境の整備

オンライン学習がいつでもできるよう、タブレット家庭学習デーの取り組み

○一人1台の端末整備済み

—中学校でのオンライン学習の取り組みを推進していく。

実施状況
内部評価

【今後の方針】

- ・感染症対策に必要なものの予算化等状況に応じた感染症対策を実施

<p>外部評価委員 による評価・ 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・完全不登校の児童生徒はいないとのことだが、SSWCは今年度で終わるようなので「<u>ぴーちく LOVE にしかわ</u>」には今後もよろしくお願ひしたい。 ・<u>部活動の地域移行</u>についての検討は<u>慎重</u>に進めていただきたい。（怪我や事故等もあり得る） <p>【（８）豊かな心の育成について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育について明記していただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> 学校で発達段階に応じて指導していただいている。今のところ、大きな問題に発展している事例はないが、今日的課題であることから具体的な取り組みに記入していく。 ・授業の中での性教育については、どのように実践されているのだろうか。時代の変化と共に早いうちからの正しい性理解や指導が求められているように感じる。 <ul style="list-style-type: none"> 毎年小学５・６年生、中学３年生を対象に毎年講演会を開催している。中学校ではＲ３年度までは母親委員も一緒に参加し、Ｒ４年度は保護者全員に呼びかけた。 <p>【（１０）様々な困難や課題を抱えた児童生徒への支援について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育について明記していただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> 町では教育支援委員会を年２回開催し、特別な支援が必要な児童生徒について情報共有をしている。臨床心理士やソーシャルスキルワーカーにも指導いただきながら、適切な学習環境が整備できるよう取り組んでいる。小中学校とも学習生活指導員を配置し、支援が必要な児童生徒への対応を行っている。具体的な取り組みの中にも記入していく。 <p>【（１１）感染対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たにコロナが蔓延し、今後新たな変異株が出る可能性も高く、これからは共存した生活が続くと思われる。自分の命を自分で守っていくことができる能力がさらに大切になる。感染症についての理解とその対応や望ましい生活習慣についての指導を加えていくことが必要かと思われる。 <ul style="list-style-type: none"> 文科省や県の通知、指導用ポスター等を活用し学校で指導していただいている。感染症についての理解は小中とも保健学習で取り扱う内容となっている。 ・<u>不登校解消に向けた具体的な取り組みが必要</u>に感じた。不登校が小学生はほぼゼロなのに対し、中学生が増加傾向になる原因の究明、定期的な子どもたちに対するアンケートやいじめなどの問題が無いのか、学校に行くことの意義や目的を繰り返し教えることが必要なのではないのか。<u>不登校生徒へのケア、学習する意欲を高める工夫、タブレットを使用しての補習など</u>を実施してほしいと思う。 <ul style="list-style-type: none"> いじめに関するアンケートは年３回実施し、県・国に報告している。深刻になる前に解消できている。 ・スクールバスについては他の町のスクールバスと違い、路線バスを利用しているので、時間帯が必ずしも学校の時間と合っていない路線があると感じた。冬期間については希望により徒歩児童も乗車出来るようになればと思った。 <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査、ミーティングを実施し、意見をいただいております、冬期間までの改善できるようにしていく。
---------------------------------	--

(5) 新たな価値を創造する人材・グローバルな人材の育成

基本的方向 2 未来への飛躍を実現する人材の育成

豊かな語学力やコミュニケーション力を備えた世界に通用する人材を育成すると同時に、日本や異文化のよさも理解し、社会の各分野で活躍できる人材を養成する。

重点施策

(12) 英語教育の充実

(13) 国際交流の推進

実施状況 () 成果 () 課題 ()

実施状況
内部評価

(12) 英語教育の充実

外国語に触れる体験的な学習の機会の提供

小学6年生のブリティッシュヒルズでの外国語宿泊研修の実施

外国語宿泊研修や学校にネイティブスピーカーが常勤していることで、英語でのコミュニケーションをとることができている。

保小中の系統的な英語教育のカリキュラム、CAN-DO リスト作成・見直し

○ALT を中心に英語教育の推進を図ることができた。

CAN-DO リストを活かした学習の更なる展開が必要である。小学校時の英語学習の成果を検証するため、令和4年度から中学1年生も英語のNRTを行っていく。

外国語指導助手の複数配置

町職員、ALT 2 名体制の継続

中学生への英語検定支援

中3英検受検料補助 (R3 は受験率 83%)

【今後の方針】

- ・ネイティブスピーカー、外国人と億劫なくコミュニケーションできる力を育むため、現在実施している事業の継続
- ・NRTによる学力の把握、分析、学力向上のための対応策

(13) 国際交流の推進

町に来る外国人と町民の交流の拡充

コロナ禍であり、交流の機会はなかった。

オンラインを活用し、外国に住む人との交流の場の設定

台湾南湖小と西川小とのオンラインでの交流会

インターナショナルスクールの町内での合宿にくる留学生と西川小学生との交流 (12 月) ができた。

【今後の方針】

- ・来町した外国人と町民・児童生徒の交流機会の提供
- ・オンラインを活用した外国人との交流機会の提供

外部評価委員による評価・意見

- ・国際交流はコロナ禍であり交流の機会がなかったが、オンライン交流会や、留学生と西川小学生との交流ができたことは非常にいいことだと思う。
- ・今後も、来町した外国人と町民・児童生徒の交流機会の提供をお願いしたい。
- ・十数年前にコロラドからのホームステイを受けたことがあったが、交流したインパクトが大きくとても良い経験をした。
- ・グローバルな人材を育てるためには、語学力やコミュニケーション力などのスキルを身につけることはもちろんですが、同時に新しいことに積極的に挑戦していくチャレンジ精神や失敗を恐れない気持ちや向上心を養っていくことが大切かと思われる。
- ・福井県は英語の教育に力を入れており、成果が現れていると聞いた。西川町も ALT の先生が 2 名おり、保育園児から英語に親しむ環境はあると思うので、会話のできる英語を目指していってほしいと思う。西川町は、地域おこし協力隊員の大幅な採用を考えているようなので、その方たちと小中学生が交流し、いろいろな考えを持っている人見と交流することも大切と考える。

(6) 互助・共助による活力あるコミュニティの形成

基本的方向3 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

個々人の多様な学習活動の実施や参画により、家庭や地域のネットワークを広げ、互いの支え合いや助け合いによる、活力あるコミュニティを作っていく。特に学校や社会教育施設を地域の振興に貢献する拠点と位置づけ、協働体制を整備しながら、住民の地域社会への参画を拡大していく。

- 点施策重**
- (14) 西川版教育プラットフォームの構築
 - (15) 家庭教育支援の充実
 - (16) 青少年育成活動の推進

実施状況 内部評価	実施状況 () 成果 () 課題 ()
	<p>(14) 西川版教育プラットフォームの構築</p> <p><u>地域学校協働本部、放課後子ども教室等の拡充による地域学校協働活動の推進</u></p> <p>放課後子ども教室において、希望する全児童が利用できる体制整備のためのアンケート調査、そのための予算編成</p> <p>放課後子ども教室において、希望者児童全員参加のクリスマスパーティ</p> <p>R4 は、希望者全員を放課後子ども教室で受け入れ及びイベント的な開催を予定</p> <p><u>コミュニティ・スクール機能の推進</u></p> <p>学校運営協議会の開催</p> <p>○これまでの熟議のみから、委員も参加しての活動(中学校では空き缶回収、缶つぶし)</p>

【今後の方針】

- ・学校と地域が連携して、それぞれの課題を解決できる取り組みを目指していく。

実施状況 内部評価	<p>(15) 家庭教育支援の充実</p> <p><u>教育機関等とのネットワーク構築、相談体制の整備</u></p> <p>スクールソーシャルワーカーを中心に、課題を抱える保護者への相談対応を行った。健康福祉課とも情報共有しているが、一層の連携を取っていく必要がある。</p> <p><u>家庭学習の手引きの活用などにより発達段階に応じた取り組みの推進</u></p> <p>学習状況調査から、家庭学習の時間が短い状況がうかがえる。家庭学習の手引きを確実に活用しながら取り組んでいく必要がある。</p> <p><u>ゲーム依存、SNS 被害防止等の研修会、メディアのルール作りの推進</u></p> <p>学校・PTAによるメディアに関するルールづくり</p> <p>中学校健康委員会によるメディアコントロールに関するアンケート調査実施</p>
--------------	--

<p>実施状況 内部評価</p>	<p>小学校では生活リズム強化週間(メディアコントロール)の取り組みを年3回実施。また、生活リズムアンケート調査の実施、学校保健委員会でのテーマの1つとして話し合い等を行った。</p> <p>児童生徒のタブレットの使い方のルールづくり</p> <p>学校教育センターの部会で調査・研究を行った成果を各家庭での実践に結び付ける必要がある。</p> <p><u>家庭教育講演会の開催</u></p> <p>小学校において講演会を開催し、保護者への啓蒙を図る予定。中学校においては家庭教育の補助金を活用していないが、PTA行事の一貫として生徒と保護者が一緒に講演会を行った。</p> <p>コロナ感染防止のため、保育園では家庭教育の講演会は開催しなかった。</p>
	<p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習、メディアコントロール等の課題についての教育委員会、学校、PTAが連携した取り組みの推進 ・保育園、小・中学校での家庭教育に関する講演会支援 <p>(16) 青少年育成活動の推進</p> <p><u>青少年ボランティアサークルの育成を支援、活動のPR</u></p> <p>color'sによる放課後子ども教室、図書館での絵本の拭き掃除、あいべの時間プレミアムへの運営協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各事業のお知らせを行い、積極的に参加する中学生の姿が見られた。 ○color'sによる放課後子ども教室クリスマスパーティ、夏休み中の開催時の協力 <p><u>青少年の企画や発想を採用しやりがいを持たせ、地域行事への参加を増やす</u></p> <p>地域活動の手法等を学び合うMYボランティアスキルアップセミナーへの参加 青少年が地域活動を始めやすい環境を整備することが求められている。</p> <p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室でのボランティア活動を多く設定していく。 ・中高生が地域の祭りや伝統芸能などの地域活動に企画段階から参画するなど主体的な活動を推進
<p>外部評価委員 による評価・意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>放課後子ども教室で、R4から希望者全員の受け入れることは良いことだと思う。</u> ・中学校での生徒と保護者が一緒になって講演を聞いたことは有意義な時間を共有することができたと思う、帰宅後親子で講演について話せたら尚結構だと思った。 <p>【(14) 西川版教育プラットフォームの構築について】</p>

<p>外部評価委員 による評価・意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区の子ども会について、どのような係わりを持っているのか。活動への指導や支援はあるのか。 <li style="padding-left: 2em;">子どもも少なくなってきて従来型の地域単位の子ども会が成立しにくい状況になってきている。新たな視点での取り組みへの意識づけが必要になってきている。 ・<u>家庭と地域の中でも「たくましさ」を育てることを意識</u>していくことが必要かもしれない。 <p>【（15）家庭教育支援の充実について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習が短い原因は何か。宿題は、学校で終わっているかもしれない。または、短時間で終われるのかもしれない。学習内容や学習の方法、環境などについて検討していく必要がある。 ・西川町は地域おこし協力隊員の大幅な採用を考えているようで、その方たちと地域の大人はもちろん、小中学生も交流し、成長する機会が増えていけばと考える。 ・メディアコントロールはとても難しい問題であり、家庭で使用する時間帯や時間を決めておくことが出来ればと思う。逆にタブレットを活用した親子で勉強するメディアコントロール方法の実施など出来ればと思った。 ・<u>ボランティア活動サークル</u>については、子どもたちの活動をサポートできる大人の配置や部室のような場所の確保、<u>年度初めの会員の募集</u>などを考えていく必要性があるのではと思った。
----------------------------	---

(7) 生涯学習と生涯スポーツを通じた交流と地域・組織づくり

基本的方向3 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

地域や町民のニーズに対応した適切な学習機会を社会教育施設等において提供する等、総合的に支援するシステムを構築し、交流による地域づくりを促進していく。

重点施策

(17) 町民各層の生涯学習の推進

(18) 町ぐるみで健康と活力を築くスポーツシステムづくり

	主な事業内容 () 成果 () 課題 ()
<p>実施状況 内部評価</p>	<p>(17) 町民各層の生涯学習の推進</p> <p><u>年代別の学習プログラム「あいべの時間」の継続実施</u></p> <p>あいべの時間プレミアム(10/16)実施 文化庁補助金「子どもたちのための伝統文化の体験機会回復事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数 400人 ・体験内容 月山和紙すき、あかりづくり、華道、茶道、昔遊び、けん玉ミニ大会、こけし絵付け、歴史散策と郷土食 <p>アンケート結果ではほとんどの方が大変良かった、まあ良かったと参加者の満足度は高かった。また、今後も続けたいと回答した方も多かった。</p> <p>中高生のボランティアによる会場案内や、スポーツ推進員の方からの運営手伝い、町女性グループによるおさがり会の開催など、たくさんの協力をいただき開催することができた。</p> <p>なでしこアカデミー(女性対象 2/26)実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加 17組 ・内容 味噌づくり <p>コロナ禍により対面ではなくオンラインも活用した講習内容とした。</p> <p>子ども向け講座はコロナ禍により中止</p> <p><u>郷土学習の強化(公民館と連携した出前学習会)</u></p> <p>大江親広公入部 800年に関連し郷土史調査員による講座の開催</p> <p>丸山薫青少年文学賞「青い黒板賞」第28回応募総数589点</p> <p>青い黒板賞の応募点数は増加している。</p> <p><u>地区公民館相互の情報交換、情報発信</u></p> <p>～人とつながり地域をつくる～ 令和3年度町公民館長会議「交流座談会」</p> <p>3/13実施 13公民館のうち10名出席</p> <p>参加者アンケート結果では、情報交換の場としてよかった。有意義な会議だった。今後もこのような交流会を実施して欲しい。</p> <p>今後の公民館活動の在り方をどうするのが、大きな課題である。</p>

【今後の方針】

- 公民館・各種生涯学習関係団体・関係組織の主体的活動促進
- ・生涯学習係と中央公民館による実態把握と適切な支援
- 時代の要請、町民のニーズにフォーカスした生涯学習事業の戦略的展開
- ・コミュニティの担い手育成とDXを中核に据えた人材育成（政策推進課との連携）

(18) 町ぐるみで健康と活力を築くスポーツシステムづくり

スポーツサポート西川の体験・見学会の実施、健康マイレージの取り組みを推進

スポサポ西川 令和3年度開催教室（4教室を延べ123回、会員約120名が延べ1,343人参加）

町民の生涯スポーツに関してある程度のニーズに応えている。

運営基盤の脆弱さにより、新規教室の開催などが困難である。

健康福祉課マイレージ事業と連携（対象教室等に生涯スポーツ事業を取り込み）

し、スポーツ推進委員が各種大会や教室開催の折に事業のPRを担う。

新型コロナウイルス感染症のため、各地のミニデイや町民スポーツ大会が中止となり、PRすることができず。

上記により成果は得られず。

スポーツ少年団の活動の周知、合同交流会の実施、指導者の学習会の実施

令和3年度団員数等 5団体92名（指導者数20名）

西川町・大江町スポーツ少年団合同わくわく交流スポーツ教室（12/12実施）

山形県スポーツ少年団指導者研修会（11/13実施）

スポーツ活動だけでなく、交流活動などの幅広い分野を体験し、協調性や礼儀等を学ぶことにより健全な人間育成に役立っている。

少子化による団員数の減少による団の維持が困難になってきている。

カヌー、スキー振興のため、指導者養成・環境整備

町のスポーツであるカヌー、スキーの競技力の向上と施設整備を図っている。

カヌー競技での国体・インターハイ等全国大会での町出身選手の活躍

今後の安定的な競技人口の確保と指導者の養成

スポーツ推進委員への活動支援と学習会等の実施

軽スポーツ出前教室、健康マイレージ事業推進

コロナにより各地区巡回軽スポーツ教室及び定期的なスキルアップ研修会を実施できず。

地域内での教室開催に対する意識の醸成、委員のスキルアップ

実施状況
内部評価

	<p><u>各種町民大会の開催、自然を活かしたスポーツの推進</u></p> <p>令和3年度は全ての大会が中止 2年間大会が中止により、特に地区主体のチーム活動が停滞している。</p>
	<div data-bbox="197 342 1449 797" style="border: 1px solid black; background-color: #d9ead3; padding: 10px;"> <p>【今後の方針】</p> <p>健康づくりスポーツシステムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年代各層に適應できる種々の可能性を持つ「けん玉」を中核に据えて各種スポーツ大会の持続可能な持ち方への転換 ・関係団体との綿密な連携による実施方法等の見直し スポーツサポート西川の運営支援 ・指導者の確保と運営スタッフの養成等 部活動の地域移行に向けた課題把握と環境整備 ・中学校、体育協会、各種スポーツ団体間の連携強化による環境整備 </div>
<p>外部評価委員 による評価・意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいべの時間プレミアムは、文化庁補助金での開催とのことだが、これからも続けることができないか。参加させていただいたが大変良かった。 ・コロナ禍ではあるが、<u>健康づくりとスポーツシステムの構築</u>よろしく願います。 ・<u>あいべの時間プレミアム「子どものための～」</u>は、大変有意義な事業だと思う。継続していきたい。 ・日本文化を体験し知るとは、国際交流の場面でもかかせないものだと思う。 ・あいべの時間は今後定着し長く続いていく事業であらばと思う。 ・スポーツ少年団わくわく交流会は私も参加したが、軽スポーツを通じて楽しく活動が出来た。 ・生涯学習やスポーツに関しては、強力に牽引してくれる町民の方や、しっかりとした組織がないものについては長続きしないと考える。

(8) 自然や文化を生かした地域づくりの推進

基本的方向 4 自然と文化を生かした心豊かな人づくり

本町には、古くから出羽三山信仰などによりもたらされた文化的遺産や民俗伝承、月山・朝日連峰、寒河江川ど豊かな自然が創り出した美しい景観があり、また、大井沢地区では、大井沢小中学校と地域の人と一緒に、朝日連峰の大自然のもとに全国に先駆けて自然研究・自然学習が取り組まれてきた。また、手付かずの自然が今も多く残されている月山山麓には、野外での自然学習施設として、県立自然博物館がある。これらの自然資源や文化遺産を大切に、自然学習、新たな文化活動に向けた取組みを継続する。

重点施策

(19) 町内のひと・もの・自然を活用した学習機会の充実

(20) 新たな文化財の掘り起しと芸術・文化活動の振興

	<p>主な事業内容()成果()課題()</p>
<p>実施状況 内部評価</p>	<p>(19) 町内のひと・もの・自然を活用した学習機会の充実</p> <p><u>歴史文化の学習会の開催、歴史・文化資料の展示</u></p> <p>町歴史文化学習会 6 回開催、大江姓安中坊系譜複製を作成、大江親広公入部 8 0 0 年記念誌の発行</p> <p>学習会は毎回 2 0 人程度の受講者がいる。大江家に関連する歴史をまとめ、また、歴史的価値の高い系譜を複製展示した。</p> <p>学習会参加者の固定化</p> <p><u>地域素材を活用した学校・家庭・地域が連携した学習の活性化</u></p> <p>西川小学校での町内各地区を会場とした「ふるさと楽行」の実施</p> <p>企画の段階から学校と地域の連携が図られている。</p> <p><u>人材の発掘、知識や技術を身につける研修会の実施、情報提供の充実</u></p> <p>大井沢自然博物館への学芸員の配置</p> <p>伝承館巧人による新たな「冬の企画展」の開催</p> <p><u>自然学習・伝統文化を継承する学習施設の整備</u></p> <p>安中坊別当屋敷跡を歴史公園として整備</p> <p>歴史公園に関して町職員研修やあいべの時間プレミアムでの歴史散策を実施</p> <p>自然学習フィールド(大井沢地内)の整備</p> <p>ボランティアガイドの養成</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0f0e0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【今後の方針】</p> <p>「あいべ」と各種生涯学習関連施設、各町有施設間の連携</p> <p>・「鎌倉殿の 1 3 人」とのマッチングによる西川町及び関連施設の P R</p> </div>

<p>実施状況 内部評価</p>	<p>(20) 新たな文化財の掘り起しと芸術・文化活動の振興</p> <p><u>文化財保存修理等の財政支援、歴史文化資料館の情報発信</u> 阿弥陀堂阿弥陀屋敷の石碑の修繕、町文化財等への保存管理費の負担等 町歴史文化資料館入館者数 1,057人 町ホームページ等での企画展の案内 文化財指定に関して所有者との関わり</p> <p><u>芸術文化協議会への財政支援、活動の情報発信</u> 町芸術文化協議会に対する補助及び会場使用料の補助(1/2) 加盟団体の会員数の減少による活動の縮小</p> <p><u>文化祭の拡充支援</u> 展示点数 585点、ステージ発表 6 団体、入場者数：作品展示 528人、ステージ 発表約 200人 新たにステージ発表をオンライン配信した。</p> <p><u>各種サークル活動支援</u> 高齢者大学・女性いきいき教室への開催負担 コロナ禍により未開催</p>
	<p>【今後の方針】 伝承活動等継承の持続可能な新たな仕組みづくり ・地域の実情に基づいた、伝承活動の全町的取組み</p>
<p>外部評価委員 による評価・ 意見</p>	<p>・町内各地区を会場としての「ふるさと楽行」の実施は西川町が誇れる活動だと思う。 ・岩根沢神社等の彫り物が当町出身者の作品であることが新聞の記事に載っていた がもう少し深掘できないか。まだまだ、町内にはお宝が眠っていそうな気がする。 ・町民にも芸術文化の鑑賞機会の提供を。コンサートや演劇など、優れた芸術文化に 触れる機会を設定してほしい。 ・町文化資料館については、町の歴史がわかるものを展示する建物であってほしいと 思った。たとえば各小学校や中学校などの資料や栄光の歴史などをまとめ、町民が懐 かしく集うことの出来る場所になればと思う。また、国道沿いに町文化資料館案内看 板が無いように思ったので、設置の必要性があると思う。</p>

6 教育事務評価委員の意見（総括）

外部評価委員 による評価・ 意見	<ul style="list-style-type: none">・教育振興基本計画のもと、短時間で答えが出るものや数年かかるものがあると思われるが、<u>基本理念を持ち、基本目標に向かい、確実にそれぞれの方向性で取り組みができることにご期待する。</u>・教育目標にむけての具体的施策、<u>その実施を受けての成果と課題と分かりやすい記述になっている。半面、どのように評価すればいいのか迷った。</u>・西川学園（保小中一環教育）全体構想は、<u>すばらしい計画だ</u>と思う。・保小中一貫教育の推進について「1つの保育園、小中学校各1校という特性をいかし」とあるが、<u>小規模校の特性としてメリット、デメリットをどう捉えているのか。メリットをどう生かし、デメリットへどのように対応していくのかの記述があるとよい</u>と思う。・「教育大綱」からは、社会情勢の変化に対応しながら現状分析や課題を明確にして目標を設定し、新たな施策や解決の道筋を示すことに力点を置いて見直し改定されたことがよく理解できた。また、学校教育と社会教育と区別するのではなく、<u>共通の目標に向けて共に取り組んでいこう</u>という姿勢が感じられた。・西川学園構想に基づく一貫教育の推進を目標に挙げているが、<u>本当に小学校から中学校に進学した際の連携の強化図られているのか。不登校になる子どもが出てくる以上、連携が不足していないのかなど</u>の問題があると思う。<u>小学生の内はその子どもにあった手厚い教育が成される反面、中学生になった時のギャップが激しいのではない</u>か。
------------------------	---